

むくのきだより 12月号



令和7年11月28日 港区立赤羽幼稚園 園長 中村 美奈子

人権週間 ～友達と関わり、学ぶ～

園長 中村 美奈子

赤羽幼稚園の園庭の一角にある畑がサツマイモの葉に覆われています。子供たちが引っ張ると、つるが長く伸び、その先にたくさんのサツマイモが現れました。子供たちは大喜び。園庭では、小さいミカンやカキも実り、収穫しました。赤や黄色の落ち葉を拾い、マイクロスコープでタブレット端末に拡大して映して見たり、紙を重ねてこすって葉脈を写し取ったり、深まっていく秋を楽しんでいます。

上野動物園に遠足に行った後、遊戯室に「あかばねうえのどうぶつえん」ができました。年長ゆり組の子供たちが作ったゾウ、ゴリラ、レッサーパンダ、プレーリードッグと遊べる動物園です。段ボールや紙などで形を作り、色を塗りました。動物が動く仕掛けを作ったり、遊ぶものや餌を作ったり、どんどん本物らしくなっていました。素敵な動物園ができたのは、一人の力ではありません。段ボールなどの材料をどのように組み合わせるか相談し、助け合ってくつつけたり、色を塗ったりしました。何を作るか、どのように作るか、自分が出したアイデアが友達から「いいね！」と共感されることもあれば、「でも、こうした方がいいんじゃない？」と否定されてしまうこともあります。どんどん進んだり、なかなかみんなの思いがまとまらなかったり、紆余曲折がありながらも、どのグループも完成させました。「園長先生、見て、見て！ こんなふうに動くんだよ！」と、とても嬉しそうにお披露目してくれました。年少さくら組の子供たちを招待したり、おうちの人に見てもらったり、完成した後もたくさん遊びました。

幼稚園のよさは、人間関係の基礎となる「人と関わる力」を身に付ける場がたくさんあることだと思います。幼稚園では、その年齢や時期に応じて、協同して遊ぶ場を意図的に用意しており、「自分の思いを伝える」「相手の思いを受け止める」「互いに折り合いをつける」経験をたくさん積むことができます。うまくいかないことやけんかになることもありますが、周りの友達や大人の力も借りながら自分で乗り越えていくことにより、子供は学んでいきます。そのことが、自分や相手のよさを認め合い、高め合う人間関係をつくることにつながるとともに、人権尊重の精神に通じるものとなると考えます。これからも、協同して遊ぶ場を大切に、子供たちを育てていきます。

今、子供たちは、友達と劇遊びを楽しんでいます。12月13日(土)の発表会で、保護者・地域の皆様にご覧いただきたいと思っています。ご来場をお待ちしています。



「誰か」のこと じゃない。



人権週間

12月4日～10日

人権デー(Human Rights Day)・人権週間

私たちは皆、自分の存在と尊厳が守られ、自由に幸せを追い求めることのできる権利「人権」を持っています。しかし、いじめや虐待など、他者の人権を考えないような問題が後を絶ちません。私たちは家庭や地域、職場、学校などで多くの人と関わり合いをもって生きています。その中で、一人一人が自分らしく、他の人たちとともに皆が幸せに生きていくためには、互いの個性を尊重し、認め合うことが必要です。そして、誰もが幸せに暮らせるよう、互いを思いやり、生活習慣・文化・価値観などの多様性や人権を尊重する社会を築いていくことが大切です。

法務省の人権擁護機関では、毎年12月10日の「人権デー」を最終日とする1週間(12月4日～10日)を「人権週間」と定め、関係機関・団体と協力し、啓発活動を行っています。港区においても、12月11日に記念講演と映画のつどいがあります。

赤羽幼稚園においても、様々な遊びや活動の中で、友達と関わり、互いの個性を尊重し、認め合うことを大切に、子供たちを育てていきます。